

三輪物語

神遊の名前の由来でもある
名曲『三輪』を各流独特の小書
にてご覧下さい



今年度の本公演は、私たち神遊の命名由来の基となる曲「三輪」を、前々回の七夕能に引き続き金春流、喜多流、観世流のシテ方の先輩方に、それぞれの流儀の大切な小書(こがら)特殊演出で演じて頂きます。どの小書も稀曲・秘曲ですので、よく稽古し、先輩の胸をお借りして勉強させて頂きます。メンバー各々がこの大切な小書を後世に伝えていく良い機会であり、大切な役割だと感じています。できれば三日共いらして頂き、三つの流儀の、それぞれに大切にされてきたものを、とくとご覧頂きたいと思っております。

あらすじ
古くから神の住む聖なる山として崇められる大和國の三輪山。秋の庵の玄賞僧都(げんびんそうず)。(ワキは毎日現れる女(前シテ)の所望に衣を与える。里人(アヒ)に知らせを受け、僧が三輪明神を尋ね行く。神前杉の杉に衣を見つけ、三輪明神(後シテ)が現れて天照大神の岩戸隠れを物語る。

Kamiasobi Miwa Monogatari

第12回公演・喜多流

9月22日[金] 午後6:30始

喜多流の「神遊」

大和三輪山麓の僧、庵室を訪う女に衣与え、住居を問うと三輪の杉と言つて消える。里人から神木に衣がと聞き、僧が訪うと三輪明神が現れ、神婚話や岩戸隠れの様を語る。

能	三輪	能	狂言
Mitsurugi	犬山伏	前シテ/女	Inuyamabushi
神遊	シテ/山伏	後シテ/三輪明神	観世 喜正
	友枝 昭世	ワキ/玄賞僧都	
	宝生 欣哉	アイ/里人	
	三宅 右近	小鼓	
	一噌 隆之	大鼓	
	宮増新一郎	太鼓	
	柿原弘和	後見	
	観世 元伯	内田 安信	
		中村 邦生	
		友枝 雄人	
		栗谷 明生	
		長島 茂	
		塩津 哲生	
		狩野 了一	
		香川 靖嗣	
		金子敬一郎	
		粟谷 能夫	

第13回公演・金春流

11月23日[祝] 午後2:00始

金春流の「三光」

本曲の小書には古来、神道関係の秘事を採入れたものが多く、観世流の「誓納」・金剛流の「神道」、喜多流の「神遊」などがそれぞれ、金春流では「三光」。この小書は、現宗家信高師が復曲したもの。

能	三輪	能	狂言
Mitsurugi	寝音曲	前シテ/女	Nangoku
三光	シテ/太郎冠者	後シテ/三輪明神	観世 喜正
	野村 謙吉	ワキ/玄賞僧都	
	殿田 謙吉	アイ/里人	
	野村 萬斎	小鼓	
	一噌 隆之	大鼓	
	宮増新一郎	太鼓	
	柿原弘和	後見	
	観世 元伯	金春 信高	
		本田 光洋	
		横山 神一	
		本田 芳樹	
		高橋 忍	
		山井 綱雄	
		高橋 汎	
		井上 貴覚	
		吉場 広明	
		金春 憲和	
		辻井 八郎	

第14回公演・観世流

12月19日[火] 午後6:30始

観世流の「白式神楽」

最高の白色一式の装束にして神の威厳を示す小書。これは流儀では、一子相伝の秘曲とされた小書「誓納」と、殆ど変わるところがない。かつて御所の能を受け持っていた弟子家である京都の片山家に「誓納」を許す代わりに出来たものと言われている。

能	三輪	能	狂言
Mitsurugi	蚊相撲	前シテ/女	Kazunou
白式神楽	シテ/大名	後シテ/三輪明神	観世 喜正
	山本東次郎	ワキ/玄賞僧都	
	山本 則重	アイ/里人	
	山本 則俊	小鼓	
		大鼓	
		太鼓	
		後見	
		観世 喜之	
		山中 貴博	
		梅若 晋矢	
		坂口 貴信	
		奥川 恒治	
		角当 直隆	
		山崎 正道	
		馬野 正基	
		観世 喜正	
		鈴木 啓吾	
		上田 公威	



友枝昭世 金春安明 梅若六郎 三宅右近 野村萬斎 山本東次郎 一噌隆之(神遊) 柿原弘和(神遊) 観世元伯(神遊) 観世喜正(神遊) 宮増新一郎(神遊)

平成12年
9月22日[金]・11月23日[祝]・12月19日[火] 於 宝生能楽堂
全指定席：正面8000円／脇正面6000円／中正面5000円
学生券3000円(脇正面席 数量限定/チケットぴあのみ取扱)
3回通しセット券(神遊のみ取扱)
正面20000円／脇正面15000円／中正面12000円
English Program Available
お申込：神遊 03-5227-1830
チケットぴあ 03-5237-9988
お問い合わせ：神遊事務局
kamiasob@wc4.so-net.ne.jp
03-5227-1830(電話・FAX共)

